



南部FCのみなさん おめでとうございます

南部FC 招待サッカー準優勝！

11月26日(日)、第20回南部FC招待サッカー大会がアルカディア運動場にて行われ、県内から3チーム、静岡県から9チームを招き全12チームが熱戦を繰り広げ南部FCが準優勝しました。

また、保護者の皆さんで豚汁を手作りし、参加チームの皆さんに振舞いました。

【南部FCから】
年に一度の南部FC最大のイベントは、町をはじめ役員、保護者、指導者、OBの皆さんの協力・支えがあつて開催することができています。すべての皆様に感謝しながら「ここに南部FCあり!!」「これぞ南部FC!!」とアピールできるようこれからも頑張っていきますので、皆さんの応援・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

南部氏展示室だより ⑥



『江戸時代の南部氏』 《藩の分割を乗り越えて大いなる繁栄へ》



長く続いた戦国時代も慶長^{けicho}20年(1615)5月、豊臣家の滅亡により終わりを告げた。7月には2代将軍徳川秀忠が「武家諸法度」を制定して各大名の統制を図り、江戸幕府の基礎を作った。

奥州盛岡藩では寛永^{kansei}4年(1627)3月、2代藩主南部利直(南部家27代)は八戸の南部直義を遠野に転封させ、後に盛岡藩の城代家老に登用して盛岡藩繁栄の礎を築いた。

寛永11年(1634)8月には江戸幕府による幕藩体制が確立されると、3代将軍徳川家光は盛岡藩に10万石の領地状を発給した。(ただし実高は20数万石であったという)

これにより南部家は安泰と思われたが、寛文^{kanbun}4年(1664)9月に3代藩主南部重直(28代)の急死によって世継騒動となったため、幕府の裁定により2藩に分割することとなった。

盛岡藩 8万石 ⇒ 南部重信 盛岡藩3代藩主(南部家29代)

八戸藩 2万石 ⇒ 南部直房 八戸藩初代藩主

その後の両藩は、江戸時代260年間領地の転封もなく、明治維新まで大いに栄えたという。

* 盛岡南部家現当主 南部利文 氏(46代) 東京都在住 岩手県神社総代連合会 会長

「南部警察署・南部町消防団による町内防犯診断実施結果」

平成29年度（診断実施日：平成29年12月5日夜間）			平成29年度	平成28年度
実施件数	一般住宅診断総件数		2,731件	(2,746件)
	事業所等診断総件数		126件	(220件)
	駐車車両診断総件数		1,502件	(1,073件)
	計		4,359件	(4,039件)
指導件数	一般住宅	玄関・勝手口の施錠状況	無施錠	187件 (201件)
			不具合	2件 (0件)
		敷地内駐車車両の施錠状況	無施錠	246件 (257件)
			車両内への貴重品等の放置	4件 (7件)
		建物周囲に可燃物はないか	ある	33件 (26件)
		計		472件 (491件)
	事業所等	玄関・勝手口の施錠状況	無施錠	1件 (3件)
			敷地内車両の施錠状況	無施錠
		車両内への貴重品等の放置	0件 (0件)	
		建物周囲に可燃物はないか	ある	10件 (1件)
		計		19件 (21件)
	駐車車両	住宅及び事業所等駐車場以外の駐車車両の施錠状況	無施錠	15件 (11件)
			車両内への貴重品等の放置	0件 (0件)
		計		(11件)

() 内は平成28年度件数

刑法犯の約7割が窃盗犯罪で、私たちの身近な生活空間で発生しています。

町内防犯診断（夜間）は、防犯という視点から、「安全で安心なまちづくり」を推進していく取組みの一環として、毎年、南部警察署と南部町消防団の協働連携により、実施しています。

空き巣、電話詐欺など身近な犯罪を抑止し、犯罪のない地域社会の実現を目指すためには、町民一人ひとりが防犯意識を高く持つことが重要で、犯罪を未然に防ぐことに繋がります。近年、住宅等を対象とした侵入犯罪は依然高い水準にあり、財産だけでなく身の危険を伴うこともあります。町民の皆様には、お出かけ前・就寝前の戸締り（住宅・自動車等）を再点検し、犯罪の起こりにくい町づくりが構築できるよう、自主防犯意識の向上と推進に努めましょう。



防犯診断を実施！戸締り、車のロック等大丈夫ですか？

文化協会統合に向けて皆様のご理解をお願いします

町が合併して15年目を迎えようとしている今でも、本町の文化協会は、南部地区文化協会・富沢地区文化協会という旧町単位、別々に活動してきました。

今日まで、統合が実現できなかった、その一番の大きな原因は、支部組織の有無と会費の徴収方法でした。南部地区においては、支部組織があり、会費は全戸から300円ということで、南部地区全員が会員となっております。それに対して、富沢地区では、支部組織は存在せず、会費は専門部に所属している人のみから400円ということで、その人のみが会員という事でした。

それぞれの文化協会は、会費と町の補助金によって運営していますが、富沢地区に関しては、その一部の人のみが補助金の恩恵を受けていることも課題でした。町民すべてが等しく公平に補助金の恩恵を受けるためには、全戸会費制となり全町民が会員になっていただく必要があります。

そして、その一人ひとりが主体者・当事者意識をもち、町民の総和で郷土の文化を育て、次の世代に胸を張って引き継いでいく、そのような組織にしていきたいと思っておりますので、町民の皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

南部・富沢両地区文化協会の統合に向けた主な取組みと今後の予定

平成27年	3月	両地区文化協会合同役員会を開催
	4月	両地区文化協会総会で、統合の必要性について説明
	8月	両地区合同役員会を開催
平成28年	4月	両地区文化協会総会で、両地区文化協会の現況を説明
	6月	両地区文化協会の現況を比較した資料に基づき意見集約
	9月	両地区合同役員会を開催
平成29年	12月	現況比較資料と役員の見解を回覧し全町民から意見を集約
	3月	町民の意見を基に、選択形式のアンケートを全戸に配布
	4月	アンケートを集計、回答数は316件（全世帯数の約1割） 両地区文化協会総会で集計結果を説明
平成29年	5月	両地区合同役員会を開催町文化協会総会で 統合に向けての方向性を説明
	6月	広報6月号に、文化協会統合に向けての記事を掲載 各組回覧形式で、アンケートの集計結果を公表
	8月	両地区合同役員会を開催
	9月	町民文化祭実行委員会で新組織の会則案・組織図案を提案し了承
	11月	公民館連絡協議会で、新組織の会則案・組織図案を提案し了承
	12月	区長連絡協議会で、新組織の会則案・組織図案を提案し了承
	平成30年	1月
	2月	南部地区文化協会・富沢地区文化協会、それぞれに解散の総会を開催（予定）
	3月	新「南部町文化協会」設立総会を開催（予定）
	4月	新「南部町文化協会」活動開始（予定）

